

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400598		
法人名	株式会社 エステートホーム		
事業所名	サロン・ド・フレール羽島		
所在地	〒501-6244 岐阜県羽島市竹鼻町丸の内9丁目53番地		
自己評価作成日	平成26年6月27日	評価結果市町村受理日	平成26年9月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&jigyosyoCd=2170400598-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南類町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成26年7月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

響き合いという理念のもと、日々ご利用者やご家族、職員同士のコミュニケーションを大切にしている。年に3~4回程度、ご家族を招いての食事を開き、一緒に過ごせる時間が持てる様、意識している。
また、1年を通してご利用者の皆さんに季節を感じて頂ける様、リビングや玄関まわりの飾り付けや旬の物を食事に取り入れた献立の提供を心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、養老山脈や伊吹山、田園風景に囲まれる自然の豊かな中に立地している。一方で歩いていける距離にスーパー、コンビニ、食事処、市内最大の公園や公共施設、消防署などがあり、防災上も心強く非常に恵まれた環境の中にある。職員は心が触れ合う事を日々意識し、ケア理念の「響き合い」を様々な支援の中で実践し、利用者・家族・地域との響き合いを大切にしている。法人は県内外に複数の事業所を持っており、法人全体で会議や研修を行い、経験や技術を学び合いバックアップして各事業所を支えている。これまで看取り例はないが、同一法人内の他ホームでの経験、ノウハウの蓄積があり、希望と条件が整えば終のすみかとする事も可能である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	響き合いの理念に沿ったケアを意識し、実践出来る様努めている。 また、月2回の会議で響き合えた事について意見を出し合い意識を高めている。目につく場所に掲示もしている。	響き合いのケア理念が全ての職員に浸透しており、利用者・家族・地域との響き合いが大切にされている。ことばのある方もない方も全ての利用者との心が響き合う事を求め、職員は日々のケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。天候の良い日は、買物、散歩や外出を心掛け、地域との繋がりが途切れない様に努めている。 また、子供110番の窓口にもなっており資源回収への協力もしている。	自治会集会に参加し事業所の話をしたり子供会廃品回収に協力する等、地域とのつながりが継続されている。秋祭りは町内一軒一軒を訪問し、参加のお誘いをしている。ボランティアの受け入れも年々増えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出時などに認知症の方への理解や支援方法を示している。 秋まつりでは、介護相談も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員やご家族、利用者の参加もあり気軽に話が出来た雰囲気の中で会議が出来ている。恒例となっている3月の食事会を兼ねた会議では、新たな参加者もあり意見交流が出来ている。	ボランティアや2人の民生委員も会議に参加し、サービスの実際や評価結果、地域の困っている事等話し合っている。年に一度食事会を兼ねた会議が持たれ、出来るだけ家族も参加し意見が出せる様工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者、エリアマネージャーが日頃から連携を取り、協力関係を築ける様、努めている。運営推進会議などでも話をする機会がある。	今年度は地域包括支援センターに代わって高齢福祉課が運営推進会議に参加している。管理者は会議の案内を市町村まで持っていったり、電話にて日頃の相談をする等、協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会からの資料を使いユニット会議で具体的な研修をしている。 身体拘束のないケアを目指している。 現在、身体拘束している方はいない。	法人の研修教育委員会に代表者が参加し、その資料を基に拘束について各事業所で研修を行っている。受講後の研修レポートは本部へ送られ次の研修に活かしている。現在身体拘束はなく、畳にマットを敷く等、一人ひとり拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会からの資料を使い会議で研修を行い、虐待の防止に努めている。 特に口調が強くなってしまわないよう意識し、日々の業務でも、職員同士が注意し合える様な関係である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入社時の初級研修にて学ぶ機会を持っている。また定期的な研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談にて、ご利用者、ご家族に対し、十分な説明を行い、理解、納得をして頂いた上で、契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の会話の中から、意見を聞き、出来る範囲で支援出来る様努めている。ご家族との信頼関係が出来た後は気軽に意見を職員に伝えて頂いている。 また、意見箱、苦情窓口を設置している。	昨年目標達成計画に会話の時間を意識する事が掲げられ、達成期間が過ぎた今も職員はその取り組みを意識し継続している。普段の会話や面会時の意見を月2回のユニット会議で話し合い、運営に活かしている。	“世話になっている”との思いから意見を言い出し難い家族の心情を察し、事業所以外の外部の人へ更に小さな意見も気軽に言える機会の検討を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や日々の会話等で話をする機会を設けている。又一対一のヒヤリングを実施し、職員からの意見を現場に活かせる様、努めている。	スタッフの普段の会話やユニット会議で出された意見を、運営に活かす様努めている。管理者との1対1のヒヤリングを年1~2回実施し、内容によっては本社に相談・交渉して意見や提案の実現に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人の職員に応じた担当を作り、責任、やりがいのある職場を目指している。個々の強みと努力を認め、評価している。社員への昇格もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内では、教育、研修委員、理念・介護推進委員会を設置している。委員を中心に介護技術の向上を目指している。 また、社内外研修案内を出し、参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	G・H協議会の委員会や研修に参加している。昨日から行っている感動事例発表会を文化センターで行い、一つの目標に向かい他事業者と協力し合い、交流を深める事が出来た。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談にて、ご利用者様、ご家族様からの情報収集、また入居後は、小さな気づき・発見など、スタッフ間で情報を共有し、安心して生活出来る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に、ご家族の話をしっかりと傾聴し、ご家族と共にご利用者の生活を支援できる様、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面談で、得た情報から必要としている支援を専門職と共に話し合っ見て見直している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を踏まえ、各ご利用者の状態に応じた役割があり、さり気なくサポートをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡など日々の様子を報告している。ご家族様を招いての食事会を開き、一緒に過ごして頂ける時間も作っている。個別外食の機会も実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加し、馴染みの方と出会う事もあり喜ばれている。 友人の方が訪ねてくれた時には、ゆっくりと過ごして頂ける様、配慮している。	体調や天候に配慮し、地域の人々が集まる別院の藤祭りや市民の森の桜祭りなどに全利用者が出掛けられるよう努めている。馴染みの店の外食支援や気軽に事業所訪問が出来る様、面会時間も設定していない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の相性を把握し、関係が上手く保たれる様、配慮している。又職員が橋渡しとなり新しい交流が生まれる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて、対応している。いつでも相談を受け入れられる様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中から意向や希望の収集に努め、困難な方は、ご家族の話や本人の行動、仕草などから意向をくみ取りケアに繋がられる様、努めている。	事業所理念にのっとり、利用者に寄り添って気持ちを推しはかり、これをスタッフ間で確認し、響き合う関係作りに取り組んでいる。これにより、言葉の表出が困難な利用者の思いをも汲み取れるようになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談やご本人、ご家族から情報を聞き取り、以前の生活環境、習慣を少しでも取り入れた生活を継続して頂ける様、努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ一同、情報の共有に努め、自分らしく生活して頂ける様にケアを行って。定期的な検討会などからも現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議、担当者会議、申し送りなどで、情報の共用をしながら、何が必要なケアかを検討し合い、現状にあったケアに努めている	スタッフの日々の気づきを土台にして綿密なモニタリング、アセスメントを行っている。これをもとに本人、家族、医療関係者の意見を吸い上げて担当者会議を行い、ニーズが的確に反映された介護計画へと繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り、介護記録、連絡ノートを活用し、スタッフ一同、情報の共有に努めている。また、ユニット会議で検討会を実施し、現状に即したケアプラン作成に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ、ご利用者・ご家族の状況に合わせた対応をしている。その時に出来る最大限の努力をし柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の意向に沿い、散歩や買い物に出掛けている。新たなボランティアの受け入れをし地域の方々との交流を意識している。(抹茶・お話し相手・踊りなど)ご利用者の楽しみとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に、かかりつけ医と施設主治医を選択出来る。 現在、入居前からのかかりつけ医の往診を受けている方もあり、他の医療関係を受診している方もある。	2週間に一度の事業所主治医と希望するかかりつけ医の往診で、利用者の日常的な診察、健康管理を行っている。更に急な状況の変化にも対応できるよう、訪問看護ステーションと各医師、ホームが連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携により、24時間のオンコール体制を確保している。 週に一度の訪問を受け、日常的な健康管理とアドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、こまめに面会し、その都度担当NSより情報を得ている。ご家族との情報の共有も意識している。 退院時の受け入れ体制も伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、状態の変化に合わせ、主治医・ご家族様との話し合いの中で施設として出来る限りのケアを行っている。 契約時において重度化した場合や、終末期についての説明と同意を得ている。	特別な医療ケアの必要がない限り、関係医療機関と連携し看取りが可能である。これまで看取り例はないが、同一法人内の他ホームでの経験、ノウハウの蓄積があり、研修も行っている。希望があれば、適切な時期に再度看取り契約を行うことになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルに沿って、対応している。 定期的に会議で確認する機会を持っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回定期的に消防訓練を行っている。、風水害対策マニュアルを作成し、研修会も行っている。運営推進会議では議題として取り上げ協力も依頼している。	消防署が目前にあり、防災上心強い。災害時には地域の協力を受けるだけでなく、事業所の一部を避難先として提供できることを申し出るなど、自治会を通しての協力関係もできつつある。備蓄3日分も確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声掛けをしている。入浴や排泄時には特に羞恥心に配慮した対応を心掛けている。	利用者、スタッフ間の響き合う関係が基本にあり、人格を尊重した言葉かけや対応を行っている。排泄、入浴時や個人的なことに触れる場合は特に、自分ならどうしてほしいかを考え、声の大きさにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る方は、一緒に選んで頂き自己決定がやや困難な方は、2択3択で選んで頂いている。意志疎通困難な方は、日々のケアから好みを把握出来る様になっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活習慣を把握し、出来る限り希望に沿える様、努めている。 また、その時々体調・精神面を考慮し、業務変更など調整を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度、床屋の来所がある。 通い慣れた美容院へ行かれカットされる方もいる。外出時はおしゃれへの配慮もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使用し季節を感じて頂ける様意識している。誕生日の方はご本人の希望した献立を提供している。 盛り付けや食器拭きなど出来る所を、手伝って頂き職員と一緒にやっている。	利用者とスタッフが共に食卓につき、音楽をかけ会話をしながら、和やかな食事時間を持っている。メニューや盛り付けに工夫をしたり、時には地域のレストランに出かけ、食事が楽しみになるような支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、メニューを作成し、個々に合った形状で提供している。意識的に大豆、海藻類が摂取できる様献立表に印を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に合わせて毎食後行っている。 必要に応じて、仕上げ介助・口腔内拭き取りなどを行っている。歯科医の往診もあり治療やアドバイスを頂く事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し、個々の排泄パターンを把握している。さり気ない声掛けや、誘導など出来る限り、トイレでの排泄が継続出来る様努めている。	健康管理の必要からオムツ使用の人もいるが、ほとんどの人がリハビリパンツで過ごしている。個々に合わせたトイレ誘導や夜間のポータブルトイレの利用など、少しでも快適な生活ができる様支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日おやつ前に体操やボールを使つての運動を行っている。食事面では、ごはんに麦、寒天を混ぜたり、十分な水分補給、起床時、牛乳を飲んで頂いたり、場合によっては医師と相談し、薬で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	入浴表により順番に入ってもらっているが、体調不良や拒否など無理強いせず臨機応変に対応している。場合によっては、シャワー・清拭など、個々に合わせて対応している。	スタッフは、入浴時間を利用者と1対1で向き合える大切な時間ととらえている。個々に合わせて会話を楽しんだり、ゆっくり湯船に浸かってもらうなど、リラックスできるよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調整や居室の環境整備など個々に合わせた対応を行っている。 歩行、自操出来る方は、自分のペースで行い、介助が必要な方は希望を聞き、対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がいつでも見られるよう処方箋をファイリングしており、服用する時は、二人で確認し、内服するまで見守っている。 処方に変更があった時は、症状の変化を記録紙に残し主治医に報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態に応じて出来る事を手伝って頂いている。ご利用者の意向を伺いながら定期的に行事を企画し、気分転換をして頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調をみながら外出の機会を意識し支援を行っている。 面会者や家族との外出、自宅へ外泊する方もいる。ご家族との個別外食も実施している。	近所の公園の桜祭りや、竹鼻の藤祭り、地域の店での外食などに、全員で出かけている。またこの他に、個別に散歩に出かけるよう努めている。たとえ短時間であっても、外へ出ることが利用者の生き生きとした表情に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かっている資金があり、希望があれば一緒に行き、出来る方には支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応出来る様にしている。個人で携帯電話を持っている方もみえる。手作りのハガキをご家族や娘さんに送る事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾り付けを行い、テラスには、花・野菜を育てている。水やりを手伝ってくれる方もみえ、成長を皆で楽しみにしている。食事の際は、TVを消し音楽を流しゆったりと食事出来るよう配慮している。	玄関を入ってすぐにリビング、カウンター式台所があり、利用者、スタッフ互いの様子がわかり、リラックスできる空間である。この部屋の窓からはプランターの植物、その先に街の様子も眺められ、明るく解放的である。廊下も広く、安全で機能的な造りである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下・リビングにソファを置き、自由に行き来出来る様になっている。新聞を読んだり、TVを見たりご利用者同士、会話を楽しんだりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物、思い出の品など持って来て頂き、今まで通り使って頂いている。畳や、こたつ、鏡台など使われている方もいる。	居室には馴染みの家具や小物の他、事業所で写した本人や家族の写真も飾られている。全居室の入り口に暖簾が掛けられ、プライバシーが守られつつも人の気配を感じることができ、安心の為の工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所、トイレ、お風呂など看板を設置したり、居室入口に写真や名前を貼り、分かりやすくしている。		